

看護研究を行う学生の英語読解力向上に有効な教材開発のための基礎的研究

著者	中村 博生
雑誌名	学長特別研究費研究報告書
巻	18
ページ	75-79
発行年	2007-09-20
その他のタイトル	The Fundamental Study on Development of Effective Materials for Improving Nursing Students' Reading Ability
URL	http://hdl.handle.net/10631/777

看護研究を行う学生の英文読解力向上に有効な
教材開発のための基礎的研究

中村博生

新潟県立看護大学（看護基盤科学）

The Fundamental Study on Development of Effective Materials
for Improving Nursing Students' Reading Ability

Nakamura Hiroki

Niigata College of Nursing

キーワード：特殊な目的のための英語(English for Special Purposes),看護学生 (Nursing student) ,読解力 (Reading ability) ,教材開発 (Material Development)

要旨

ESP (English for Special Purposes : 特殊な目的のための英語) を学ぶ学生のための英文読解力向上には、英文読解ストラテジー (語彙、統語、意味、文読解ストラテジー) が身に付くような教材を提供することが有効である。看護研究を目指す学生の英文読解力を向上させるための効果的な教材を作成するには、どのような配慮が必要なのかを英文読解ストラテジーの観点から検討した。看護学生の立場に立って検討すると、特に語彙ストラテジーの学習に困難をきたしていることがうかがえた。そこで、学生の読解力を向上させるうえで、まず語彙ストラテジーの問題を解決することが重要だと考えた。本研究では、看護に関する文献を看護学生に読んでもらい、意味の不明な単語を抽出してもらうことで、よく用いられる単語や専門用語を検討して、学生の英文読解力向上に有効な教材や指導方法を検討した。

I. 目的

英文を読解する際に、Bottom-up strategy (意味の関連やテキストの構造に焦点をあてる読解) と Top-down strategy (内容と形式のスキーマを使用する読解) を用いることが有効であるとされている。Bottom-up strategy では、The meaning-based strategy (意味の関連に焦点をあてる読解) と The structure-based strategy (テキスト構造の構成に焦点をあてる読解) が中心となる。また、Top-down strategy では、内容と形式のスキーマを使用する読解を行うためには、学習者が持つ世界の知識とテキスト構造の知識を使用することが中心となる。ところが、Top-down 処理を適切に使用できず Bottom-up にたよりすぎる学習者は、Top-down 処理の欠如、あるいは2つの処理のバランスが崩れていて、そのことが未熟な L2 (第2言語) 読解力に、双方向過程 (熟達した L1 (第1言語) 読解力が行う読解術) を行わせないという (Carrell,1988)。したがって、学習者が英文読解力を向上させるためには、

読解ストラテジーの学習 (The meaning -based strategy(意味の関連に焦点をあてる読解)の学習, The structure-based strategy(テキスト構造の構成に焦点をあてる読解) の学習, Top-down strategy (学習者が持つ世界の知識内容と形式のスキーマを使用する読解))に加えて Interactive reading conception (双方向読解概念) を身につけることが必要となる。

ところで, The meaning -based strategy の学習の意義は, 単語のもつ意味の重要性 (Bever,1970), 文法は意味を抽出するに必要な項目だけに限るべき (Rivers,1981), 日本の英語教育では, 自己の読解力の不如意の原因については, ほとんどの者が語彙の不足, 複雑な長い文, の 2 点を指摘する (天満, 1989) などにおいて述べられている。

以上のことを踏まえ, 本研究では, 看護学生の英文読解能力向上のために必要な能力を視野に入れながら, 特に, 看護に関する文献にある語彙について, 学習者の語彙能力を分析し教材開発の方向性を検討する。したがって, 本研究の目的は, 看護論文における意味不明な語のリストアップと高頻度から低頻度の単語を順に配列し提示することにより, 小規模な LSP コーパス (Language for Specific Purposes Corpus: 特殊な目的のための言語資料) を独自に作成する。そのデータベースを英文読解力向上のための教材開発の一助とすることである。

II. 方法

- 1 被験者 看護学生 52 名
- 2 使用文献 *Home care versus institutionalization: family caregiving and senile brain disease*, 総語数 4,490 総文数 244
- 3 調査方法 学習者は 60 分間で, まだ学習していない看護に関する 1 つの論文(4, 490 語)を読み, 意味の不明な語, あるいは文脈から意味を類推できない語を抽出する。
- 4 分析方法 抽出された意味の不明な語の人数の多い順に並べて分析の対象とする。

III. 結果

次ページに被験者が意味不明と答えた単語上位 24 を示す (紙面の都合上)。*は看護の文献に頻出すると思われる語を示す。

IV. 考察

語彙ストラテジーの観点から, 意味が不明であるとして抽出された語に注目する。irreversible は「～に反して」という意味で用いられる接頭辞の in が rの前で ir となる。reversible は日本語でもその意味がよく知られている形容詞であるので, 語彙ストラテジーとしては, 接頭語の学習によって不明語の意味が推測できる。また, multidimensional は, multi-「多数の」を意味する連結形であり, dimension は「局面」という意味の名詞, -al は「名詞に付けて, ～の性質の, という意味の形容詞を作る接尾辞」であることを, 語彙ストラテジーとして身に付けていると学習者は, 意味を類推することが可能である。

順位	英単語	人数
1	irreversible	50
	senile*	50
2	staggering	46
3	burden	44
	determine	44
	institutionalization*	44
	investigator	44
	mutuality	44
	spouse*	44
	verbal	44
4	function	43
	intolerable	43
	range	43
5	cognitive	42
	consequence	42
6	demographic	41
	gerontological*	41
7	cognitively	40
8	alternative(s)	39
	depth	39
	implications	39
	institutionalized*	39
	literature	39
	manage	39
	prolongation	39
	crucial	38
9	gather	38
	dignity*	36
10	institution*	36
	tremendous	36
11	observation	35
	qualitative	35
	socio	35
12	ability	34
	adequate	34
	circumstances	34
	distribution	34
	impaired*	34
	perception(s)	34
	prediction(s)	34
13	detrimental*	33
	modified	33
	ratio	33
	strategies	33
	varimax	33
14	ailing*	32

順位	英単語	人数
16	aphasia*	30
	coded	30
	methodology	30
	participant	30
17	coefficient(s)	29
	questionnaire	29
	reciprocating	29
	reliability	29
	resilience*	29
18	decline	28
	demented*	28
	determined	28
	identification	28
	relating	28
	relevant	28
19	achieved	27
	approval	27
	comprehend	27
	gratification*	27
	gratification	27
	impairment*	27
	instruments	27
	overwhelming	27
	reinforced	27
	significance	27
	statistics	27
20	array	26
	assigned	26
	attempt	26
	caregiver(s)*	26
	chronically*	26
	frequent	26
	minimal	26
	protocol	26
	statistical	26
21	assuming	25
	behavior(s)*	25
	emerged	25
	socio-economic	25
22	adaptation	24
	correlating	24
	desirable*	24
	overwhelmed	24
	rewards	24
23	despite	23
	household*	23

	assumed	32		moderate*	23
	coding	32		parameter	23
	evaluating	32		perceived	23
	immense	32		sensory*	23
	multidimensional	32		testify	23
	multiplied	32		testify	23
	multiplied	32		urban	23
	noteworthy	32		verbally	23
	permission	32			
	sociodemographic	32			
15	analysis	31	24	adjusted	22
	construct	31		individual	22
	significant	31		jeopardy*	22
	tolerate	31		multi	22
	transcribed	31		summed	22

次に*を付記した比較的看護の文献に頻出すると思われる語について述べる。これらの語で、senile, spouse, gerontological, institutionalization, ailing, dignity, impaired, aphasia, などの語は、上記の語彙ストラテジー以外に看護に関する文献で頻出する語として学習しておかなければならないものである。看護の文献を専門として数多く読んでいると、おのずと身についてくることが予測されるが、事前に学習しておくことが語彙ストラテジーを発揮する上で有効であると考えられる。

V. 結語

本研究の調査結果から、看護研究を行う学生の英文読解力向上に有効なストラテジーは、最初の段階として、語彙ストラテジーを学習できる教材開発と指導方法が必要であることが推測される。英単語の語源や、接頭辞、語幹、接尾辞などの基本的な要素を学ぶことは、不明な語を少ない知識から類推でききる力を身に付けることになる。また、専門の文献で頻出する英単語については、前出の資料などから LPS コーパスを作成して、より専門性の高い英単語を身に付けさせることが有効であると思われる。今後の課題としては、英文読解ストラテジーの他の要素をも指導できる教材と指導方法を開発することにより、看護学生の英文読解力向上に有効なシラバスを開発することである。

文献

- 1) Hirschfeld M.(2003): Home care versus institutionalization: family caregiving and senile brain disease, *International Journal of Nursing Studies* 40.
- 2) Carrell, P. L. (1988): Interactive approaches to second language reading. Cambridge, M. A. : Cambridge University Press.
- 3) Bever, T. G. (1970) : The cognitive basis for linguistic structures. In Hayes, J. R. (ed), *Cognition and the development of language*. New York: John Wiley.
- 4) Rivers, Wilga M (1981): *Teaching foreign-language skills*. (2nd.ed.) Chicago & London: University of Chicago Press. .
- 5) 天満美智子 (1989) : *英文読解のストラテジー*, 大修館書店, 東京